

「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた学校改善

取組 (4) 教員の資質・能力の向上

中核校における中堅・若手教員の計画的な育成に向けた学校づくりに向けた校長としての取組

- 1 指定地域で共有する中核校の中堅・若手教員の育成
 - (1) 若手教員を講師として行うメンター研修やブラッシュアップ研修の実施
 - (2) 年間を通じて「授業公開」を行う月例研修と、異校種（異なる規模や校種）との授業づくり
- 2 中核校の取組を広げる取組
日常の中核校の取組を、他校の初任者層へ公開したり、上記の取組を連携校や管内の学校に、ICTを活用して公開したりするなど、主幹教諭、教頭とともに他校と積極的につないだ。
- 3 指定地域で共有する教員のICT活用の取組
効果的なICT機器の使用法の共有や、中核校での活用方法の交流などを行った。

中核校の校長として、校内の組織体制の充実に向け、主幹教諭、分掌部長、係などと、直接・間接的に関わり、学校経営への参画意識を高めた。

成果

ICTを活用することにより、コロナ禍での他校と関わる事業において中止の選択が少なくなり、実施する考えが当たり前になりつつある。また、授業改善のうち、事前準備等にかかる時間が短縮されるなど、効果が出ている。



【月例授業公開とメンター研修の様子】

質の高い教育活動を持続的に行う働き方改革の実施

取組

(3) 中核校の業務の効率化に向けた取組の充実

「ICTの活用など、学校業務の効率化に向けた校長としての取組 2本柱」

- 1 コアチームを中心とした業務改善の取組（ボトムアップ、ブーストアップ）
コアチーム発案の取組について、職員全体がそれに向かい合意形成に進むよう導いたり、具体的な事例提示や具現化イメージをコアチームに助言したりするなど、戦略的に組織的な取組を推進した。
- 2 校長提示から進める業務改善の取組（トップダウン、ブーストアップ）
教育課程の大きな変更を伴う場合や、コアチームに新たな取組の提言として具体案を示すなど、状況を見ながら使い分け、業務改善の具現化を図った。

《具体的な実践の一部》

家庭訪問の事実上廃止（デジタルマップを利用した住居確認、別日程の個別懇談へ）、運動会（昼食なし午前開催）、学芸会（音楽的内容中心の学習発表会へ）、予定黒板（日課、月行事）の廃止（デジタル化）、学校日誌（日課デジタル化と統合）、国旗の常時掲揚、通知表年2回（評価二期制）、保護者からの欠席連絡（メール受付導入）、連絡網廃止（完全個別メール化）、保護者アンケート等（デジタルフォーム化）、要録（デジタル化 C4th）、個別の支援・指導計画のデジタル化

《今後の予定》

時間外電話受付（音声ガイダンス化）、毎日の児童健康観察のデジタル化、健康カードのデジタル化と従前様式の廃止

成果

2本柱の取組では、職員の主体性や自主性を維持し、職員が背負いきれない部分を校長が補うなど、バランスよく分担したことにより、業務改善の具体案は全て具現化され、時間外在校等時間も削減された。

（R4/4月～R5/1月において、時間外在校等時間の月平均は、前年度と比較して8月を除きすべて減少）



【町校長会の研修において、中核校等の取組と成果について交流している様子】